

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/seiiku-zyoho.html#suitou>

第 4 報  
千葉県農林水産部  
令和8年6月26日

## 4月植えの「コシヒカリ」は穂肥の時期となっています 生育に応じて穂肥の時期・量を調整しましょう。

### [ 生育概況 ]

6月第3半旬以降、気温・日照時間ともにおおむね「平年並」で推移しました。気象庁の6月25日発表の1か月予報によると、気温は「高い」見込みとなっています。いずれの品種も水が必要な時期となっており、今後高温が続くことが予測されますので、白未熟粒の発生に注意し、湛水で管理しましょう。

現在の生育は、草丈が「並～やや長」、茎数が「並～多」、葉色が「淡～並」となっています（表1）。

幼穂形成期はいずれの品種も「平年並」です。4月20日植えの「コシヒカリ」、「粒すけ」については既に幼穂形成期を迎えている地域もあり、5月1日植えの「コシヒカリ」は6月27日頃からとなる見込みです（表2）。また、早生品種は7月8日頃から出穂期を迎えますので、イネカメムシの発生に注意しましょう。

表1 品種別の生育状況（幼穂形成期時点）

品種	植付時期	生育程度（平年値との比較）※1			
		生育進度※2	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	並	並	並	並
ふさこがね	4月20日	並	やや長	やや多	並
コシヒカリ	4月20日	並	並	並	並
	5月1日	並	並	多	並
粒すけ	4月20日	並	並	多	淡

※1 平年値は直近10か年（2016～2025年）の平均値。

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断。

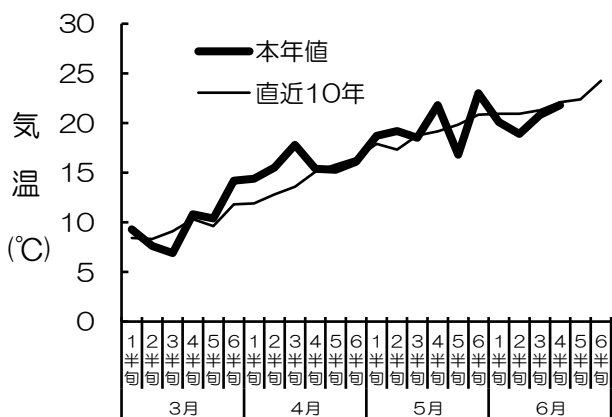


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

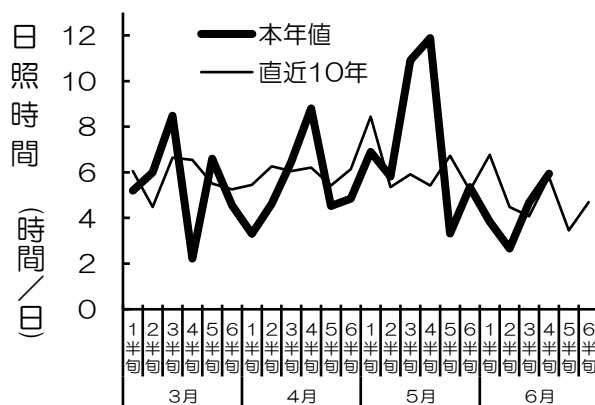


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

# [ これからの管理のポイント ]

## ■ 穂肥の実施

品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安（表2）を参考に、穂肥を施用しましょう。各品種の10a当たりの施肥量の目安は、窒素と加里を成分量で各3kg（房総南部の粘質土では、「コシヒカリ」「粒すけ」の窒素成分は2kg）です。

「コシヒカリ」は幼穂形成期の目標生育量（表3）を参考に、施肥量を調整しましょう。なお、「飼料用米多収品種（専用品種）」は、窒素と加里を成分量で10a当たり各3kg（ただし、たい肥を施用している場合は、窒素のみ3kg）が目安となります。

表2 品種別・地域別の幼穂形成期及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
コシヒカリ	4月20日	6月27日	6月24日	6月22日	6月22日	幼穂形成期7日後～ 15日後 【幼穂長1cm～8cm】
	5月1日	7月2日	6月29日	6月27日	6月27日	
粒すけ	4月20日	6月25日	6月23日	6月21日	6月21日	幼穂形成期7日後頃 【幼穂長1cm】
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日	6月30日	6月28日	6月27日	6月27日	幼穂形成期5日前～5日後 (ただし、最高分げつ期 に葉色が低下した場合は、 すぐに追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日	7月8日	7月7日	7月5日	7月5日	

(※) 幼穂形成期は、水稻作柄安定対策調査結果の実測値及び生育ステージ予測システム（千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。

表3 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) × 莖数 (㎡当り)	カラースケール値 (※)			草丈 (cm)	予測される 生育・収量	対策		
	3.5	4	4.5			穂肥 加減	穂肥 時期	倒伏 軽減剤
16,000 以下	560 以下	490 以下	440 以下	70cm 未満	籾数が不足し、 やや減収 目標どおりの生 育が期待	増肥、または時期を 2～3日早める。		
16,000 ～ 20,000	560 ～ 700	490 ～ 600	440 ～ 550			70～ 80cm	標準量	標準
20,000 ～ 27,000	—	600 以上	550 以上	75cm 未満	籾数過剰とな り、乳白米の 発生が心配 稈長が伸び、 倒伏が心配	減肥（窒素施用量 1～2kg/10a）し て時期を遅らせる か、または無施用。		
				75～ 82cm		×	×	必要

(※) カラースケール値とおおよその莖数 (㎡当り) の関係は、SPAD 値とカラースケール値との換算式に基づき、目安として示した。

## ■ 高温登熟障害を回避する施肥管理

出穂期後 20 日間の日平均気温が 26℃を超えると、高温登熟障害により、白未熟粒（背白粒・基部未熟粒）が発生しやすくなります。本障害は、登熟期の稲体窒素濃度（葉色）が低い場合に発生が助長されるため、葉色を低下させないことが重要となります。また、適正に穂肥を施用しても、出穂期に葉色が低下する場合があります、高温登熟障害に特に強い「ふさおとめ」以外の品種では注意が必要です。

気象庁の6月23日発表の3か月予報では、気温は「高い」と予想されています。出穂期7～5日前（穂ばらみ期）に葉色が淡く、出穂期の葉色が目標値に達しないと予想される場合、「ふさこがね」、「コシヒカリ」、「粒すけ」は 10 アール当たり窒素成分で1 キログラムを上限（食味低下を防ぐため）に追肥を施用しましょう。また、添付の「高温に負けない稲づくり（令和8年度版）」も併せてご覧ください。



写真1 高温登熟障害により発生した基部未熟粒と背白粒

表4 各品種の出穂期の葉色目標及び対策時期と施用窒素量

品種	葉色 (SPAD値)	対策 時期	窒素 量
ふさこがね	36.5	出穂期	1kg/
コシヒカリ	34.4	7～5 日前	10a 以内
粒すけ	34.0		

※「コシヒカリ」の SPAD 値 34.4 はカラースケールによる群落葉色値で概ね 4.0 に相当。

## ■ 出穂前後は湛水管理、低温時水管理

中干し後は「間断かんがい」を行い、出穂期 3 週間前から出穂期 2 週間後までは「湛水管理」を行います。（自然由来のカドミウムの吸収を抑えるための技術です。）

穂ばらみ期は水が特に必要な時期です。高温が続く場合は減収回避のため田面が乾き過ぎないように気を付けましょう。冷害危険期となる幼穂形成期 10～15 日後

（出穂期 15～10 日前、表5を参照）に日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは幼穂を保温するため「深水管理」にしましょう。

飼料用米の「アキヒカリ」「夢あおば」は耐冷性が弱いため、特に注意しましょう。

表5 冷害危険期予測（冷害危険期は記載日から6日間）

品種	植付時期	県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	6月28日	6月25日	6月23日	6月23日
ふさこがね	4月20日	6月29日	6月26日	6月24日	6月24日
コシヒカリ	4月20日	7月7日	7月4日	7月2日	7月2日
	5月1日	7月12日	7月9日	7月7日	7月7日
粒すけ	4月20日	7月5日	7月3日	7月1日	7月1日
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	7月10日	7月8日	7月7日	7月7日
飼料用米(夢あおば)	5月15日	7月18日	7月17日	7月15日	7月15日

## ■ 水稻生育予測システム「でるた」の出穂期予測

「でるた」の出穂期予測（表6）を参考に、斑点米カメムシ類の防除時期等の目安を判断しましょう（右QRコード参照）。

「でるた」の予測はあくまでも目安とし、実際の作業時期はご自身のほ場を実際に確認して、ご判断ください。



水稻生育予測システム  
「でるた」HP

表6 品種別・地域別の「でるた」を用いた出穂期予測

品種	植付時期	県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	7月13日	7月10日	7月8日	7月8日
ふさこがね	4月20日	7月14日	7月11日	7月9日	7月9日
コシヒカリ	4月20日	7月22日	7月19日	7月17日	7月17日
	5月1日	7月27日	7月24日	7月22日	7月22日
粒すけ	4月20日	7月20日	7月18日	7月16日	7月16日
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	7月25日	7月23日	7月22日	7月22日
飼料用米(夢あおば)	5月15日	8月2日	8月1日	7月30日	7月30日

## ■ 病害虫・雑草防除

農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用しましょう。

また、「令和8年版農作物病害虫雑草防除指針（付 植物成長調整剤使用指針）」も参照してください（右QRコードからご覧ください）。



農作物病害虫雑草  
防除指針 HP

## ○イネカメムシについて

イネカメムシは、他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂直後の加害により不稔籾を発生させ、直接的な減収被害を引き起こします。また、他の斑点米カメムシ類と同様に乳熟期の加害により、斑点米による品質低下も引き起こします。

本種は防除要否の判断が難しい害虫であるので、前年の発生数や不稔被害の発生程度を参考に、個々のほ場ごとに防除の要否を検討しましょう。薬剤防除を実施する場合は、各ほ場における「出穂期」が防除適期となるため、「でるた」による出穂期予測を参考に、防除時期を決めましょう。

斑点米発生が多い圃場では、本種の防除と並行して他の斑点米カメムシ類の防除適期である「出穂期から15日後頃」を目安に薬剤を散布しましょう。



写真1 イネカメムシ

## ○その他の斑点米カメムシ類について

イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類は畦畔のイネ科雑草に生息していますので、出穂2週間前までに畦畔雑草を刈取ります（出穂前後の草刈りは斑点米カメムシ類をほ場の中に追い込むため控えましょう）。

斑点米カメムシ類は、水稻の出穂後、周辺に生息していた成虫が水田に侵入します。防除適期は、成虫飛来期である「穂揃期（出穂期3日後）」と、侵入した大型の斑点米カメムシ類の成虫が産卵した卵から幼虫が孵化する「出穂期から15日後頃」です。

また、周囲よりも出穂の早い水田や特に遅い水田は、集中的に加害される可能性があるため、注意しましょう。

## ○飼料用米ほ場における防除

飼料用米ほ場でも斑点米カメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。農薬は、稲用に登録されている薬剤を使用することができませんが、粳米のまま出荷する場合は出穂以降の農薬散布は行えません。ただし、安全性が確認された農薬については、出穂始め以降の散布が認められていますので、右のQRコードにより、（独）農林水産消費技術センターの最新情報を確認してください。



（独）農林水産消費  
技術センターHP

## ○いもち病、紋枯病、稲こうじ病の防除

いもち病は、長雨や湿度の高い日が続くと発生が多くなります。上位葉に葉いもちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に薬剤防除しましょう。

紋枯病は、高温多湿で茎数が多いと発生しやすくなります。紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。また、前年に多発したほ場では発生しやすくなります。近年では多肥栽培をする飼料用米栽培で発生が多いので、状況を確認しましょう。

稲こうじ病は、穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。玄米に稲こうじ病が混入すると規格外になってしまいます。前年に多発したほ場では出穂期10日前までに、薬剤防除をしましょう。

最新の病害虫の発生予察情報は、千葉県農林総合研究センター病害虫防除課のHPをご覧ください（右のQRコードからご覧ください）。



病害虫防除課 HP

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、7月24日に発行予定です。

### 《はじめに》

水稲の安定生産に向けては、その年の気象条件に合わせた栽培管理(基本技術の励行)が重要です。

ただ近年、水稲の出穂期後の高温により、白未熟粒などの高温登熟障害が発生しています。

白未熟粒は発生要因ごとに対策が異なるため、お手元に昨年産の米が残っていたら、白濁部位を確認し、発生要因に応じた高温対策に取り組みましょう。

また、県内全域で問題となっているイネカメムシ被害の対策も行い、収量・品質向上に取り組みましょう。

### 《白未熟粒の種類による発生要因と対策》

	基白粒	背白粒	乳白粒																			
白色不透明部の位置 (写真の上段は外観、下段は断面の様子)																						
主な発生要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>出穂期後20日間の高温(日平均気温が26℃以上)</li> <li>出穂期の葉色の低下</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>日照不足、出穂期後の高温やフェーン現象等の乾燥風による稲体水分の低下</li> <li>籾数過剰や倒伏</li> <li>(籾数当たりのデンプンの転流・蓄積不足)</li> </ul>																			
対策	<p>○出穂期前7~5日(穂ばらみ期)に、葉色が目標値に達していない場合は、速効性肥料で追肥を施用(窒素量で1kg/10aを上限)しましょう。</p> <p>出穂期の葉色目標値と、軽減対策の時期及び窒素成分量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>葉色値(SPAD値)</th> <th>施用時期</th> <th>窒素成分量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ふさこがね</td> <td>36.5</td> <td rowspan="3">出穂期前7~5日前</td> <td rowspan="3">1kg/10a以内</td> </tr> <tr> <td>コシヒカリ</td> <td>34.4</td> </tr> <tr> <td>粒すけ</td> <td>34.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注)「コシヒカリ」のSPAD値34.4は、カラースケールによる群落葉色値で概ね4.0に相当します。</p> <p>○ドローンで追肥する場合は、ドローン専用肥料をお使い下さい。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>例 空散追肥306</td> <td>3.3 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>Jコート Quick</td> <td>2.5 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>セントラル尿素 44.5</td> <td>2.5 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>CORON(液肥)</td> <td>希釈倍率 2-5 倍</td> </tr> </tbody> </table>	品種	葉色値(SPAD値)	施用時期	窒素成分量	ふさこがね	36.5	出穂期前7~5日前	1kg/10a以内	コシヒカリ	34.4	粒すけ	34.0	例 空散追肥306	3.3 kg/10a	Jコート Quick	2.5 kg/10a	セントラル尿素 44.5	2.5 kg/10a	CORON(液肥)	希釈倍率 2-5 倍	<p>○幼穂形成期の目標茎数の8割(「コシヒカリ」は目標穂数の8割)に達したら、速やかに中干しを行い、過繁茂防止と根張の促進を行いましょう。</p>  <p>中干しによる「コシヒカリ」倒伏軽減の効果(写真左:中干し無し、右:中干し実施のほ場)</p>
品種	葉色値(SPAD値)	施用時期	窒素成分量																			
ふさこがね	36.5	出穂期前7~5日前	1kg/10a以内																			
コシヒカリ	34.4																					
粒すけ	34.0																					
例 空散追肥306	3.3 kg/10a																					
Jコート Quick	2.5 kg/10a																					
セントラル尿素 44.5	2.5 kg/10a																					
CORON(液肥)	希釈倍率 2-5 倍																					

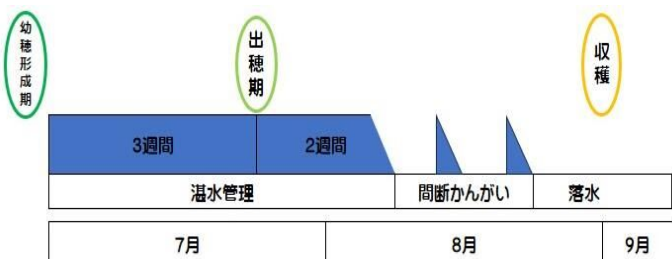
# 共通の対策

## 《対策1》根の活力を維持する水管理

出穂期の3週間前から2週間後までの期間は、湛水状態を保ち、その後は、登熟期間後半の根の活力を維持するため、間断かんがいとします。

**収穫前の落水時期が早いと、白未熟粒が増加**しますので、落水は出穂期後25日以降とします。

田面に大きな亀裂が入ると根が断絶され、登熟に必要な水分が不足しますので注意しましょう。



幼穂形成期以降の水管理の目安(「コシヒカリ」の場合)

## 《対策2》イネカメムシによる不稔、斑点米対策

**近年、イネカメムシが多発生し、出穂時に加害されると不稔粒による減収**や、乳熟期に加害されると斑点米(基部斑点米)による品質低下が発生するなどの問題が発生しています。

イネカメムシは、出穂直後の稲に成虫が飛来し、加害・産卵し、ふ化した幼虫も加害します。

**イネカメムシ対策には、早めの防除が必要で、出穂期前の粒剤散布又は出穂期のフロアブル剤散布が効果的**です。さらに、他の斑点米カメムシ対策としては穂揃期から乳熟期の追加防除も必要です。



拡大写真

出穂直後に加害  
(稲穂に止まる成虫)



イネカメムシの吸汁  
による不稔(立ち穂)



乳熟期に加害されると基部(胚芽とその周辺)斑点米になる

## 《お役立ち情報》

出穂期は、水稻生育予測システム「でるた」で予測結果を参考に、ほ場での生育状況も確認しましょう。

水稻の高温対策に関する研究成果は、第63回試験研究成果発表会\_作物(水稻・高温対策)のYouTube動画をご覧下さい。

イネカメムシと、その他の斑点米カメムシの生態の違いは、こちらのYouTube動画を参考にしてください。